

生活科

1 改訂の趣旨・要点について

- これまでの指導実践の成果を踏襲しつつ、「活動あって学びなし」との批判から、具体的な活動を通してどのような思考力等が発揮されるのかについて検討する必要がある。
- スタートカリキュラムや中学年の各教科への接続等、学校・学年段階を踏まえることを重視する。
- 具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力」等）が具体的にできるよう見直しが行われている。

2 目標及び生活科における見方・考え方について

【目標】

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
(※「知識及び技能の基礎」)
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
(※「思考力・判断力・表現力等の基礎」)
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。
(※「学びに向かう力・人間性等」)

【ポイント】

○ 生活科の「見方・考え方」とは・・・？

身近な生活に関わる見方・考え方であり、それは身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること。

○ 「自立し生活を豊かにしていく」とは、現行とどう違うのか・・・？

現行は「自立への基礎を養う」。この考えを踏襲しながらも幼稚園教育要領において幼児期の終わりまでに育ててほしい姿に「自立心」が明記されたため、「生活を豊かにしていく」の文言変更を行った。

○ 「気付き・考える」とは・・・？

複数の気付きに関係や関連性が生まれた時、気付きの質が高まる。その観点から、「考える」ことを、現行の「分析的に考える（見付ける・比べる・まとめる）」に加え、「創造的に考える（試す・見通す・工夫する）」を新たに位置付けた。

3 内容についての主なポイント

(1) 学校と生活

入学当初、幼保との連携の中でスタートカリキュラムとして扱うことも考えられる。

(2) 家庭と生活

本内容の取扱いについては、児童の家庭環境が多様化している中、十分な配慮が必要である。

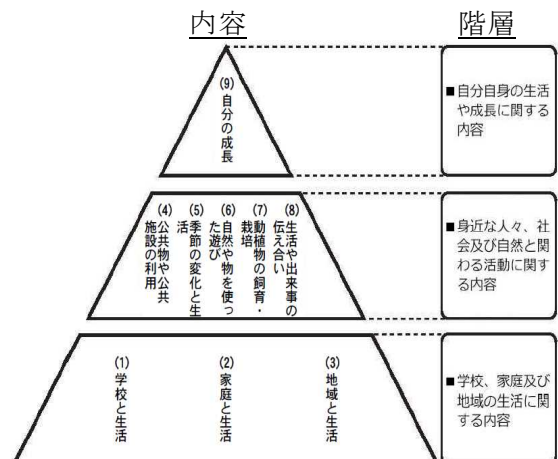


図1 生活科の内容のまとめ

(6) 自然や物を使った遊び

遊びの面白さとは、「遊び自体の面白さ」「遊びを工夫して創り出す面白さ」「友達と一緒に遊ぶことの面白さ」であり、「創造的に考える（試す・見通す・工夫する）」を新たに位置づけた「考える」の充実につながるものである。

(8) 生活や出来事の伝え合い

本内容については、他の全ての内容との関連を図ることができるが、何を対象にしてどのような資質・能力を育成しようとしているのかを明確にして位置付ける必要がある。

4 指導計画作成と内容の取扱いについての配慮事項について

【指導計画作成上の主な配慮事項】

項目	ポイント
(1)	単に体験活動を充実させるだけでなく、表現を工夫し、体験活動との豊かな相互作用を重視して気付きの質を高めることが重要である。
(2)	新設。教える側の都合ではなく、児童の2年間の認知、特性の違い等を意識し下記を吟味した上で、単元を配列することが重要である。 ① 2学年間の児童の発達との関わり ② スタートカリキュラムとの関連 ③ 第3学年以上の学習との関わり
(3)	内容(7)（動物・植物の飼育・栽培等）は、2年間にわたって（1学年でも2学年でも）取り扱う。ザリガニ・アリ等の実践例もあるが、長期間飼育でき、子ども達が思い・願いを持つことのできるものが望ましい。
(4)	他教科等との関連では、合科的・関連的な指導を行ったり、中学年以降への接続を考慮したりして、教科等横断的な視点での教育課程の編成、工夫を行う。 <u>スタートカリキュラムの編成</u> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮し、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定等の工夫を通して児童が主体的に自己を発揮できるような場面を意図的に設定することが重要である。

【内容の取扱いについての主な配慮事項】

項目	ポイント
(4)	新設。情報機器の活用については、使い方に触れさせることも大切であるが、教科の特質・児童の実態に鑑み一律に行うものではない。

5 移行措置に係る留意事項等について

- 平成30年度より全部又は一部について新学習指導要領によることができる。
- 特に平成31年度の指導に当たっては、平成32年度に前年度の指導の成果と課題等を踏まえた適切な指導計画において指導することができるよう、指導計画を作成した上で新学習指導要領による指導が展開されなければならない。